
全労済協会
「つながり暮らし研究会」
概要

第2回（2018年2月20日 開催）

1. 委員発表

(株式会社トーキョーベータ代表取締役 江口 晋太郎 氏)

(1) シビックエコノミーとは

国や行政の力だけで解決するのではなく、主体的な個人や団体が中心となり、公共的で持続的な営みを作り上げることです。誰もが、地域の担い手として、関わり方の余白をつくりながら、多様なステークホルダーとともに地域に新しい循環を作り上げていくことがシビックエコノミーです。

シビックエコノミーへの向き合い方は、「自分が主体的に関わる」「他人が主体的に関わるのを応援する」「他人を主体的にすることに关わる」ことです。

(2) 「自分たち事」とは

自分だけの「世界」と自分とは関係のない「世界」との<間>に自分たちで共有したいと思う「モノ・コト」が「自分たち事」です。あるいは、自分と自分以外の他者との間に認識されたり、創造されたりする「モノ・コト」とも言えます。今、行政に頼らない「自分たち事」の課題への取り組みがいろいろな所で求められています。

(3) トーキョーベータの取り組み

① まちの探検隊 (DigDig City)

チームをつくり、まちを探検します。探検時に使用するカードはそれぞれ「探す」「調べる」「一休み」「採取する」「質問する」「体験する」があり、そのコマンドを発動させ、地図を作成していきます。地域に住まう人だけでなく、近

隣地域に住まう人、遠方(東京などの都市部)に住む人など、多様な立場の人達がチームとなることで、街を見る視点を多層化しながら地図を作成することで、まちの価値を再発見・再発掘していき、その過程を踏まえながらまちを「自分たち事」化します。



滋賀県彦根市で作成した地図

② STAND GINZA / 80

銀座で1㎡から使えるマイクロスペース、最短出店日数1日で実施しています。出店者と来店者や出店者同士の交流が生まれます。出店区画が小さく、次のテナントが入居するまでの、約1年間という空きスペースの空間を活用し、最



STAND GINZA / 80

低限の什器を入れ込むことで出店料を抑えているため、誰もが出店しやすい設計にすることで、小さな資本のチャレンジを支える仕組みになっています。

<文責:全労済協会調査研究部>